



枝豆や 二寸飛んで 口に入る

子規

子規は病床でありながら屈託を感じさせない句を詠んだ人です。

居酒屋で「とりあえず」と言えばビールと枝豆が運ばれてくるが多くあります。こう暑くては、枝豆を食べながらキユーと一杯やりたい気分になります。

「おひや」を頼めば水、「ひや」を頼めば酒を注文することになります。「にぎり」と「おにぎり」は別物です。たかが「お」で「お、おちがい」です。

「おビールですね」と、外来語に「お」をつけることに違和感を覚えます。「お」の字ひとつで指す品が変わり、日本語は難しいものです。

国語に関する世論調査によれば、4人に3人が「お菓子」と用い、2人に1人が「お酒」と使うようです。すっきり「お」が定着している

ようですが「おビール」や「おくつした」には感心しません。

紅灯こうとうの巷ちまたをさまようことの多い身には「おビール」は頻繁に耳にしている気もします。「おくつした」だけは履くイメージと言葉にギャップがあります。

「怒り心頭に達する」「正しくは、発する」と使う人が7割を超えているようです。言葉は時代とともに変化していくものであればこそ、「お」の付け過ぎに限らず、また、慣用句の誤用に限らず正しく使いたいと思います。

食卓をふと見ると、おみおつけ（御味御付）のお椀わんが目に入りました。「お」が二つ…。一つでも時に多すぎ、二つあって邪魔にはならないよう言葉というの奥が深いものです。

人の言葉に「真」か「偽」

か見分けができないことがあります。「ポスト・トゥルース」「フェイク・ニュース」という言葉も最近よく耳にします。付度そんたくや情報操作の言葉もテレビなどで流れています。デマや真偽不明に対して「ファクト・チェック」する心眼を磨き、真実を見極めることが大切です。

子ども心に「まだ」と「もう」の間で揺れる8月です。楽しい夏休みが「まだ1週間もある」のか「もう1週間しかない」のか、宿題のことが頭をかすめてくる夏休みでもあります。

「無知の知、徳は知なり」カニは這うだろうか、泳ぐだろうか。カニを思い浮かべています。



指宿市長
豊留悦男